

平成25年5月27日

「広島大学の機能強化に向けた行動計画2012」の
今後の対応について

広島大学では、昨年10月に「広島大学の機能強化に向けた行動計画2012～『学生が成長する大学、国際社会で存在感のある大学』であるために～」を策定しました。本行動計画の各項目を、直ちに実行に移す事項やWGで引き続き検討する事項等に分類し、継続して作業を進めてきました。

この度、昨年10月から本年3月までの検討結果、および今後の対応についてとりまとめました。

本学の研究大学としての基盤の確立と、国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、地域の皆様のご理解をいただきながら、本学の機能強化に引き続き取り組んでいきます。

【お問い合わせ先】

学長室

学長室長 河村 敦

TEL:082-424-6001

FAX:082-424-6007

「広島大学の機能強化に向けた行動計画2012」今後の対応（ポイント）

行動計画	検討結果概要	今後の対応
I 学士課程の充実 1. 入学者選抜方法の検証・見直し	<p>【AO入試の充実・拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学のAO入試において、直近5年間で1,368人が入学しており、全体的には質の高い学生を受け入れている。 ・AO入試の充実に向けては、入学前事前教育等の基礎学力の保証や、入学後の成績(GPA)追跡調査などの検証が求められる。 ・海外経験のある優秀な高校生をAO入試で受け入れることについても検討する。 ・H25年秋までに検討を完了。実施時期はH28年度入試(H27年度実施)。 	教育・国際室で実施
	<p>【大括り入試の検討・導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度広島大学一般入試(前期日程)における学生募集単位は、40単位と細分化されている。 ・専門分野を決めかねている高校生や学問分野の学際化の動向を考慮すると、従来の括りが適切かどうか今後検討が必要。 ・長期的な課題として、2年次で学部(プログラム)選択が可能となる文系及び理系の総合入試枠についても検討が必要。 	教育・国際室で継続して検討
	<p>【大学入試センター試験の取扱いの見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試センター試験の利用方法として、素点ではなく、段階評定として扱う方法や、資格試験的に扱う方法(センター試験の成績が一定の基準点に到達していれば、その後は個別学力試験で合格者を決定する方法)など、取扱いを見直すことも必要。 ・中央教育審議会や国立大学協会でも検討が開始されており、これらを注視しながら対応する。 	教育・国際室で継続して検討
	<p>【TOEIC、TOEFL等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AO入試における活用を検討する。(コミュニケーション能力を適切に評価する基準として活用) ・各学部・募集単位で検討を行い、可能なところから実施する。 ・H25年秋までに検討を完了。実施時期はH28年度入試(H27年度実施)。 ・一般入試への活用可能性については、AO入試での活用結果を慎重に検証した上で、H28年までに具体的な活用方法を検討する。 	新WGを設置して検討
	2. 「10月入学」の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・4月入学を主としつつ、10月入学を併用し、留学生、帰国子女など優秀な学生の確保が期待できる募集単位では、秋入学コースを積極的に導入する。 ・英語で完結する学士課程教育プログラム(H28年度開設予定)をテストケースとして先行導入する。また、社会情勢を勘案し、導入可能な募集単位から順次導入・実施する。 ・ギャップタームは、短期海外留学等を含めて積極的に活用する。 ・10月入学を実施する募集単位では、早期卒業制度を活用し、優秀な学生は3年半で卒業可能なカリキュラムを工夫する。

行動計画	検討結果概要	今後の対応
II 大学院課程の充実 1. 入学者選抜方法の検証・見直し 2. 博士課程(後期)の入学定員の充足 3. 入学定員の増	<ul style="list-style-type: none"> 博士後期課程から本学に進学を希望する者には、審査をより一層厳正に行うことで質を確保する。 <p>【「10月入学」の拡充】 【社会人特別選抜・フェニックス特別選抜の拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会人特別選抜、フェニックス特別選抜の学生については、社会人向けのプログラムの構築や長期履修制度の活用を積極的に推進する。 <p>【外国人留学生特別選抜の拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外拠点の積極的活用や、英語での専門試験、スカイプ等の面接試験実施を検討する。 	大学院課程会議で継続して検討 副理事会 教育・国際室で引き続き検討
III 学修環境の整備 5. ライティングセンター設置	<ul style="list-style-type: none"> 4月から中央図書館にライティングセンターを設置する。 H25年度前期に博士課程前期の授業科目「学術文章の書き方とその指導法—大学教員を目指して」を開設し、10月からライティングセンター実務を担当できるチューターを養成する。 将来的には、翻訳業務もライティングセンターの機能として取り入れる。 	平成25年4月設置済み
V 東千田キャンパスの機能の充実 1. 広島地域国公立大学連携知的人材育成センターの設置	<p>【広島大学の広島地区学生の教養教育の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合大学としてのメリットを生かしつつL字型教養教育（長期にわたり教養教育を履修するカリキュラム）を実現するという本学の方針に基づき、広島地区学生についての方策を提案。 <ol style="list-style-type: none"> 1年次では東千田キャンパスを主たる教育の場として利用し、週1日を東広島キャンパスでリベラルアーツを中心に学ぶ。 2年次以降は霞キャンパスにおいて専門教育を中心に受け、週1日は東千田キャンパスでL字型教育を実践する。 <p>【大学間・産業界等との連携による教育・研究の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東千田地区における「学際的な専門教育・研究の実施」及び「社会人の受け入れ拡充」についての大学間・産業界等との連携事業案を学内公募し、定められた評価項目に沿って審査することを提案。 (事業形態) <ol style="list-style-type: none"> ①地域の他大学との連携事業 ②地域社会との連携事業 ③地域の社会人に対する大学院教育 <p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域貢献と地域連携 ②広島大学の機能強化につながるか ③実現可能性 	東千田キャンパス機能充実WGで引き続き検討 東千田キャンパス機能充実WGで引き続き検討